

編集後記

少し前までは、感染症の迅速診断といえば、せいぜいRSウイルスのキットだけでした。当時は、数種類の試薬の滴下、攪拌、数分の静置を繰り返していました。それが今ではより簡便なキットが開発され“検体を攪拌して滴下するだけ”のものもあります。また、こうして雑誌の特集になるほど、種類も豊富になりました。

板垣先生には、総論として、キットの有用性と限界・解釈について、症例の提示をしながら説明いただきました。呼吸器系感染症として、長澤先生には、RSウイルスのキットについて、現在では約20種類以上もあり高い特異度を有している一方、偽陰性となり得ることを解説していただきました。新妻先生には、ヒトメタニューモウイルスのキットについて、2014年に保険収載された新しいキットではあり、診断精度も高いことをご紹介いただきました。西先生には、A群レンサ球菌の診断キットについて、精度は高いがキャリアの存在を考慮する必要があること、つまり実施するタイミングが重要なことなどについて具体的にご説明いただきました。大石先生には、いまや血清診断より簡便となった肺炎マイコプラズマのキットについての評価をしていただきました。消化器系感染症として、高梨先生にはロタウイルス、牛島先生にはノロウイルスのキットの

精度と有用性について述べていただきました。どちらも5種類以上のキットが発売されていることを知り、驚いた次第です。Moi先生に執筆していただいた Dengue 熱のキットは、外国人旅行者が増加し温暖化が進む日本において今後はいっそう、重要になってくると思います。山崎先生に執筆をお願いした肺炎クラミジアやオウム病クラミジアのキットは、まだ開発途上にあるようです。

特集以外では、甲村先生に、小児医療の雑誌としては珍しく「若年世代に適したさまざまな避妊法を提示していただきました。中村先生には、超早産児の救命率向上に伴い増加している慢性肺疾患に関する最新データを提示していただきました。小林先生の母児接触・母児同室の留意点、小沢先生の発達障害の現状についての記事は、現代社会特有の視点や問題点を反映したトピックスと思います。また、最終項では、早産児に関する外国論文をご紹介いただいております（日本医科大学小児科）。

今回も、多くの診療科の先生にご協力いただきました。特集の迅速診断を始め、幅広い知識がアップデートされることに間違いありません。皆様のこれからの毎日の診療に、本号の内容が幅広く活用されることを期待しております。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第58巻第13号 12月号

2017年12月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。